

「幻の安土城」復元プロジェクトにかかる計画策定について

1. 特別史跡安土城跡整備基本計画

(1) 計画策定の趣旨・概要

- ・謎に包まれた安土城の実像を解明し、将来にわたって適切な保存・活用を図るため、特別史跡安土城跡整備基本計画を策定する。
- ・計画の中では、実像解明のための発掘調査と、適切な保存・活用のための環境整備について、対象地や年次計画など、全体計画を定める。
- ・計画策定は令和3年度と4年度の2ヵ年で策定する。

(2) 計画策定の背景

- ・「幻の安土城」復元プロジェクトに平成31年度から取り組んでいるが、事業の柱の一つが、復元に向けての安土城の実像解明と保全事業。
- ・安土城の実像解明に向けては、現地の発掘調査が不可欠であるが、昭和、平成に実施した発掘調査では、史跡指定範囲の約20%しか調査がされておらず、いまだ未解明のエリアが多く残されている。

(3) 計画の内容

①対象とする地域

特別史跡安土城跡 (追加指定予定地域を含む)

②検討する内容

発掘調査対象地

環境整備の手法・対象地

調査整備事業成果の活用の方法

調査整備事業の年次計画

③全体構成 (目次) 案

1. 計画策定の経緯と目的
2. 計画地の現状
3. 史跡等の概要および現状と課題
4. 基本方針
5. 基本計画
6. 全体事業計画

(4) スケジュール (予定)

令和3年5月28日 第1回計画策定検討会議

整備基本計画の全体構成の検討

令和3年6月議会	常任委員会 整備基本計画全体構成案の報告
令和3年10月	第2回計画策定検討会議 整備基本計画 1. ~ 3. の検討
令和4年2月	第3回計画策定検討会議 整備基本計画 4. の検討
令和4年2月議会	常任委員会 整備基本計画 中間報告 (1. ~ 4.)
令和4年6月	第4回計画策定検討会議 整備基本計画 5. の検討
令和4年10月	第5回計画策定検討会議 整備基本計画 6. および計画書原案の検討
令和4年11月議会	常任委員会 計画書原案の報告
令和5年2月	第6回計画策定検討会議 計画書最終案の検討
令和5年2月議会	常任委員会 計画書最終案の報告
令和5年3月	整備基本計画書完成

※計画策定検討会議メンバーの分野構成

歴史・文化、考古・史跡整備、建築、植生・環境、土木工学、
城郭・石垣、文化政策・都市計画、土地所有者、地元行政、地元住民
このほか文化庁等から適宜意見をうかがいながら策定を行う。

2. 「幻の安土城」見える化基本構想

(1) 構想策定の趣旨・概要

- ・令和8年の安土城築城450年祭に向けて、最新のデジタル技術を用いた安土城の復元（見える化）を実現するにあたり、安土城周辺地域における見える化の全体構想を策定し、安土城跡におけるデジタル技術を活用した見える化の方法について検討する。
- ・構想は令和3年度に策定する。

(2) 構想策定の背景

- ・「幻の安土城」復元プロジェクトに平成31年度から取り組んでいるが、事業の柱の一つが、安土城見える化の検討。

- ・令和2年度に、安土城見える化の方向性と方法について県民アンケート等幅広く外部の意見募集を行い、実像解明のための調査事業を進めるとともに、令和8年度の安土城築城450年に向けて、最新のデジタル技術を活用した安土城の復元を目指すことを決定した。

(3) 構想の概要

①対象とする地域

特別史跡安土城跡・滋賀県立安土城考古博物館・安土城下町跡を含む一帯

②検討する内容

デジタル技術を活用した見える化の方法

安土城跡、博物館、城下町の連携の在り方

(4) スケジュール (予定)

令和3年8月	第1回構想策定検討会議	全体構成の検討
令和3年9月議会	常任委員会	全体構成案の報告
令和3年10月	第2回構想策定検討会議	基本構想原案の検討
令和3年11月議会	常任委員会	基本構想原案の報告
令和4年2月	第3回構想策定検討会議	基本構想最終案の検討
令和4年2月議会	常任委員会	基本構想最終案の報告
令和4年3月		見える化基本構想完成

※構想策定検討会議メンバーの分野構成

文化・観光政策、都市計画、IT、地元行政(文化・観光)、地元住民、地元観光協会

このほか関係者・関係団体等から適宜意見をうかがいながら策定を行う。

3. その他

- ・見える化基本構想は、デジタル技術を活用した安土城の見える化の方法について検討するもので、より効果的な見える化を実現するためには、特別史跡安土城跡に限定せず、安土城下町や安土城考古博物館、信長の館、安土城郭資料館など、広範な地域を対象として策定を進める必要がある。
- ・整備基本計画の中で、特別史跡安土城跡の活用について記述するにあたっては、見える化基本構想における特別史跡安土城跡でのデジタル技術を活用した見える化について取り上げる必要があり、両者の整合性が求められる。